

## LocationKeeper 取扱方法

### 【特徴】

デスクトップの中に配置されているウインドの位置を記憶し、記憶した情報を元に再配置します。

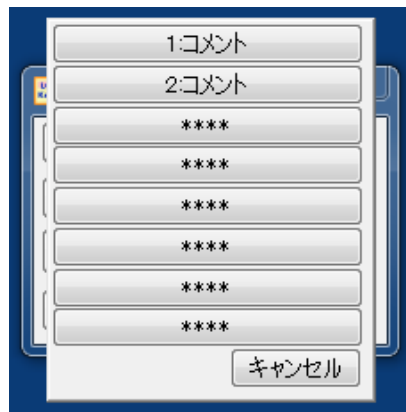
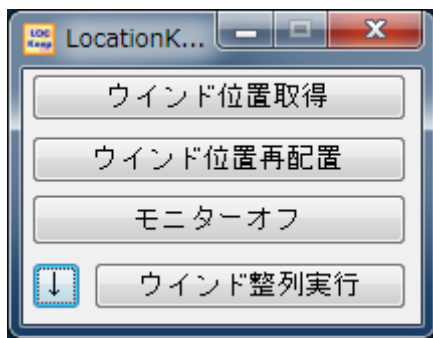
ビデオボードとモニターの間がディスプレイポート(Display Port)接続の場合、モニターの電源スイッチを操作して切った場合に、2画面の場合には別の画面に移動したりして元の状態が失われることがあります。

LocationKeeper.exe では、ウインドを再配置して元の状態に戻します。

通常パソコンを使うときの自分なりの画面の配置を決めている人向けに、ウインド位置を整列(再配置)する機能を持っています。

スタートアップにメーカーやスケジュール管理、ブラウザ、エクスプローラなどのアプリを入れてパソコンの立ち上げと同時にこれらのアプリを起動して、ウインド配置を設定通りに整列させる事が出来ます。

### 【機能の説明】



#### 【ウインド位置取得】

現在のデスクトップに表示しているウインドの状態を取得してメモリーに記憶します。

#### 【ウインド位置再配置】

メモリーに記憶している情報を元にウインドを再配置します。

#### 【モニターオフ】

ソフト的にモニターの電源を切ります。ディスプレイは省電力モードに遷移します。

#### 【ウインド整列実行】

取得したレジストリに設定したウインド情報に従った配置に整列させます。

複数の登録があれば、1回押す毎に順番に次有効なアイテムに変更になります。

このボタンの上で右クリックすると1～8番のボタンのダイアログを表示しますので直接好きな番号を選んでください

終了時は×を押して下さい。

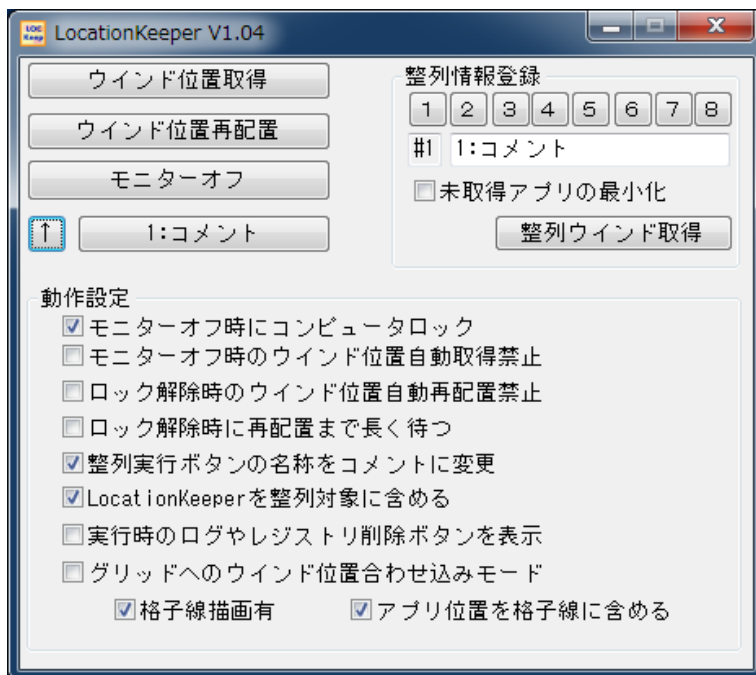
[↓]

ウインドのサイズを広げて、隠れていた設定などの部分を表示します。

2回目を押すと、ログを表示している Edit ボックスや使用レジストリ削除ボタンを表示します。

3回目を押すと、元に戻ります。

(実行時のログやレジストリ削除ボタンを表示のチェックが OFF の時は 2 回目で元に戻ります。)



[整列ウインド取得]

自分の好みに合わせてウインドを配置した状態の画面の座標をレジストリに記憶させます。

この時は、必要なアプリケーションのみを立ち上げて下さい。

[1 番]を押してからコメント欄に好きなコメントを入れて、[整列ウインド取得]を押して下さい。

違う配置を取得する時は 2 ～ 8 番を使って下さい。

「未取得アプリの最小化」をチェックしておくと、取得時には起動していないアプリでウインド整列実行時に起動しているアプリを強制的に最小化します。(Windows キー+D を押してから整列させるのと同様です)

### 【チェックボックス】

モニターオフのボタンを押した時にコンピュータをロックするかの選択で、ロックすると解除時に都度パスワードを入力する必要があります。

モニターオフのボタンを押した時に自動的にウインド位置を取得する事を禁止します。手動で操作したい時に設定します。

コンピュータロックを解除した時に自動的に再配置する事を禁止します。手動で操作したい時に ON にします。

※1 通常は OFF で使用します。

コンピュータロックを解除してから再配置するまでに約 4 秒待ちます。再配置がうまく出来ない場合に使用します。

ウインド整列実行のボタンの表示名称を任意に設定できるようにします。

LocationKeeper 自身も整列対象に含めます。

実行時のログ画面、使用レジストリ削除ボタンを隠す選択肢です。[↓]ボタンで表示を切り変える一番大きい画面を表示しません。

グリッドへのウインド位置合わせ込みモードへの設定です。

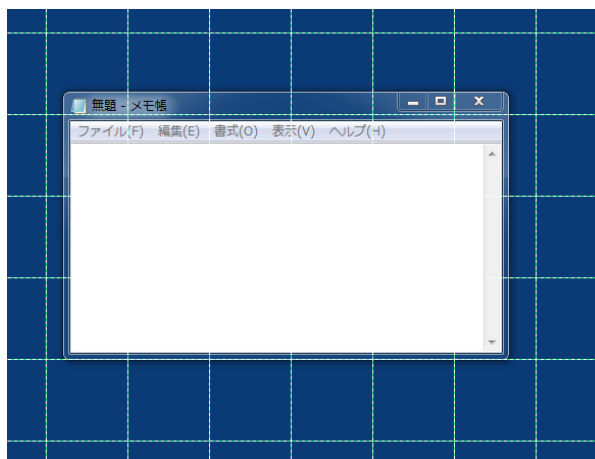
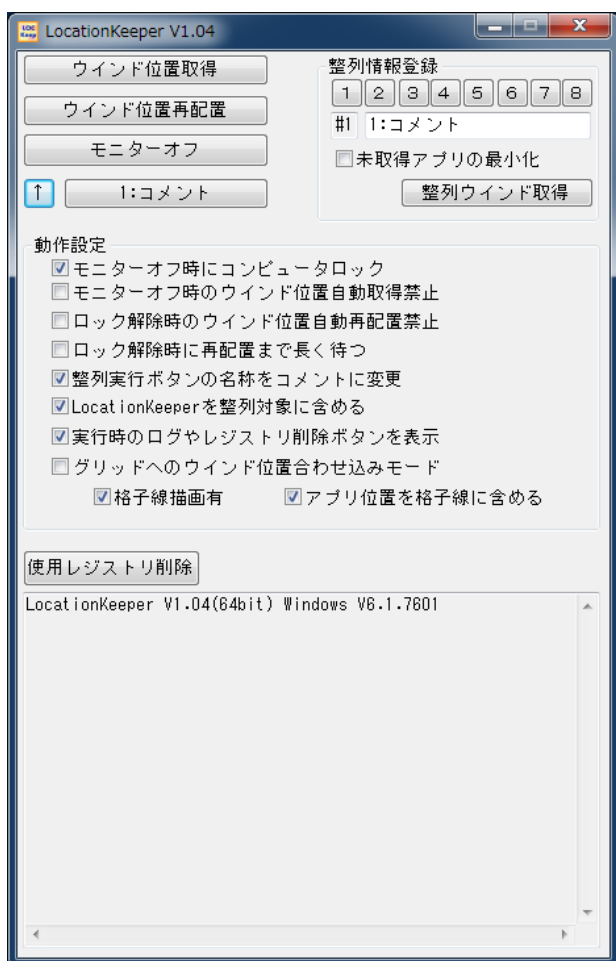
このチェックを **ON** にすると、色々なアプリのウインドをマウスの左ボタンを押しながら移動させた後に、マウスの右ボタンを長押しすると予め設定したグリッドの位置にアプリのウインドを移動します。

システムメニューの「サイズ変更」がグレーアウトしているアプリは大きさを変えずに移動します。サイズ変更できるアプリはサイズをグリッド位置に合わせます。

この設定は立ち上げ時には **OFF** になりますので、必要に応じて **ON** にして下さい。

格子線描画有をチェックしておけば、マウスの右ボタンを長押しして移動させたときにどの位置にウインドが移動するかを確認する事が出来ます。但しこの機能を使うと、CPU パワーを消費し、画面も乱れますので本当に必要な時だけ使用するようにして下さい。

アプリ位置を格子線に含めるを **ON** にすると、合わせ込みモードを **ON** にした時のアプリのウインド位置を記憶しますので、ウインド位置の隣に移動させる時に便利です。



[使用レジストリ削除]

**LocationKeeper** で使用しているレジストリを削除します。このボタンを押した後は×で終了して下さい。

一番下エディットボックスの部分は動作時のログを出力する部分です。

ディスプレイの構成情報やアプリの情報を出力しています。

## 【使い方】

[ウインド位置取得]を行って、どれかのアプリのウインドを移動させて、[ウインド位置再配置]を押してください。ウインド位置が元に戻ります。

モニターの電源スイッチを操作して **OFF** する前に[ウインド位置取得]を行って下さい。

モニターの電源を入れてから、[ウインド位置再配置]を行って下さい。

コンピュータをロックしてからモニターの電源を切る場合は ※1 の設定になっていたら、自動的にウインド位置を取得します。

モニターの電源を入れてからパスワードを入力してコンピュータロックを解除して下さい。自動的にウインドを再配置します。この時の画面の状態はメモリー上にしか記憶しません。

番号を指定して整列ウインド取得を行って現在の画面の状態を取得します。

この情報はレジストリに記憶するので PC を再起動しても有効です。ウインド整列実行を押して取得した時の画面の状態を再現します。

番号 1 ～ 8 を選択して、コメントを入れて、整列ウインド取得ボタンを押します。

起動時に引数を使って自動動作させる事が出来ます。

コマンドプロンプトやバッチファイル、ショートカットで使えます。

例：LocationKeeper.exe /R1 /W5 /E10

(例は、起動後 5 秒待つて、1 番の座標でウインド整列を実行して、起動後 10 秒で終了する)

/R 数字 --- 実行時に何番でウインド整列を実行するかを指定します。

/W 数字 --- 実行時に何秒待つてから、ウインド整列を実行するかを指定します。

/E 数字 --- 実行後に何秒経過したら自動的に終了するかを指定します。

想定している利用場面

場面	使い方
現在の画面位置を記憶し、別の作業後に戻したい。 ディスプレイの電源 OFF/ON でも画面位置を保持したい。	ウインド位置取得ボタンを押してメモリーに一時的な画面位置を記憶させます。 ウインド位置再配置ボタンを押して、メモリーから画面位置を読み出して、位置を元に戻します。 アプリを再立ち上げた場合は元に戻りません。(hWnd をチェック) 特定のアプリが元に戻らない場合は管理者モードで起動して下さい。
定型作業に合わせた画面配置に切り替えたい。	整列情報登録機能を使って、画面の配置情報をレジストリに記憶させて、必要に応じて呼び出します。パソコンを再立ち上げしても有効です。 1. 予め登録したい配置に画面を合わせます。 2. 整列情報登録の番号ボタンを押して番号を選択します。 3. 番号に応じたコメントを入力します。作業名など分かり易い名前。 4. 必要に応じて未取得アプリの最小化をチェックします。 5. 整列ウインド取得を押すと完了です 6. 整列実行ボタンの名称をコメントに変更を ON にすると分かり易い 呼び出す時は、整列実行ボタンを押すか(左クリック)、右クリックで番号を選択します。
隙間なく画面を配置したい。	グリッドへのウインド位置合わせモードを ON にします。 マウスで左ボタンを押して、アプリの位置を移動させて大体のところまで来たら、右ボタンを長押し(0.3～0.5 秒)します。 すると、決まった間隔(グリッド)にアプリのサイズを合わせます。
パソコン立ち上げ後アプリの画面配置を自動設定したい。	起動時に引数を使って自動動作させる事が出来ます。 スタートアップに入れるショートカットのリンク先の文字列に起動オプションを設定します。 例：＜フォルダー名＞LocationKeeper.exe /R1 /W30 /E60

【インストール方法】

LocationKeeper.exe を自分の好きなフォルダーにコピーして実行するだけです。特別なインストーラはありません。それぞれのフォルダーに 64 ビット版と 32 ビット版がありますので必要な方を選んで下さい。

使っている PC が 64/32 どちらかわからない場合は 32 ビット版を入れてください。

OS が 64 ビットで LocationKeeper.exe が 32 ビットの組み合わせで使うと 64 ビットアプリの実行ファイル名をフルパスでチェックする機能が働きませんが、その他の機能は動作します。

### 【アンインストール方法】

レジストリにはチェックボックスや整列させる為の設定情報などを保管していますので、[使用レジストリ削除] ボタンを押して下さい。[使用レジストリ削除]を押した後は×で終了した際にレジストリに設定情報を書き込むことはありません。

うまく消せない場合は、regdelete.bat を実行して下さい

最後に LocationKeeper.exe を削除して下さい。

使っているレジストリーキーは下記のキー以下です

HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥JIN2012¥LocationKeeper

### 【管理者権限】

regedit.exe(レジストリーエディター)やその他、管理モード実行しているアプリの位置を再配置や整列させるには、LocationKeeper.exe を管理者として実行するようにして下さい。

### 【マルチディスプレイ環境について】

マルチディスプレイを考慮して作成していますが、テストは3画面まで行っています。

もっと多い場合の動作は不明です。

アプリのウインド位置取得時と再配置時は同じディスプレイ構成で実行して下さい。

### 【レジストリ変更によるカスタマイズ】

レジストリエディタを使いますので自信のある人だけ行って下さい。

LocationKeeper と関係のないレジストリを削除、変更した場合は何が起こるか分かりません。

LocationKeeper に関係したレジストリを削除、変更した場合に動作がおかしくなったら、[使用レジストリ削除] ボタンを押して削除して再起動して下さい。

LocationKeeper は立ち上げ時にレジストリを読み込んで、終了時に書き戻しています。レジストリエディタで編集する際は、LocationKeeper を終了させてから行って下さい。

### HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥JIN2012¥LocationKeeper¥location

値の名前	内容
Title	取得後レジストリエディタで各アプリのキーの中の値 title を"*"に変更すると常に一致し、この項目での比較は無視する事になります。
addressURLName	エクスプローラとインターネットエクスプローラは値 addressURLName も"*"にすると常に一致します。一致すると整列対象になります。
isValid	値 isValid を"0"に変更するとその情報は整列実行時に反映しません。 下記のキーには画面で変更できない設定を設けています。

### HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥JIN2012¥LocationKeeper¥OptionParams

値の名前	内容
DisableAddressGet	1に変更すると IE の URL やエクスプローラのフルパス取得を行いません。
DisableCompareByClassName	1 に変更するとアプリのクラス名が変更になった場合でもチェックしません。
DisableFullPathCheck	1に変更すると IE の URL やエクスプローラのフルパスでのチェックを行いません。
GridPitch	グリッドモードで使うグリッドのピッチを設定します。初期値は 80 ドットです。変更したい場合は変更して下さい。
MaxHWNDCount	チェックするアプリの画面の最大数です。
RegVersionNumber	レジストリ構造のバージョン番号です。 前回の起動時と異なるバージョンの LocationKeeper を使った場合にレジストリ構造が変わっているかのチェックをしています。

## 【改定履歴】

V1.00 2014/10/19 初版

V1.01 2014/10/22

- ・レジストリ構成バージョンのチェックを追加
- ・選択肢を 8 種類に倍増
- ・整列時に最初に全アプリを最小化して開始する機能を追加
- ・この番号だけの削除はコメント空白で行えるように修正
- ・整列実行のボタン右クリックで拡大し 8 種選択画面にする機能を追加
- ・起動時の引数オプションに対応する。 /R1 自動整列 /W10 待ち時間 /E20 終了

V1.01a 2014/10/23

- ・フルパスの比較時に 8.3 形式に省略して比較を行うように修正  
(パソコンの環境によってはパスが 8.3 形式になるための対応)

V1.02 2014/10/25

- ・ログ画面、レジストリ削除ボタンを隠す選択肢を追加
- ・ログ画面の最初の行にタイトルや OS バージョンを出力

V1.03 2014/10/26

- ・グリッドへのウインド位置合わせ込みモード追加  
レジストリ GridPitch も追加

V1.03a 2014/10/28

- ・グリッドピッチの初期値を 100→80 に変更。レジストリバージョンを 101 へ進める。
- ・グリッドモードで使う Vector を別途宣言
- ・ウインドを閉じる時に KillTimer0 を実行
- ・どちらのグリッドに丸め込むかの閾値を真ん中に設定
- ・グリッドへの合わせ込みを行う動作の開始に右マウスボタン 0.3s 押しを設定
- ・ダイアログアプリなどサイズ変更できないアプリはグリッドモードでサイズ変更禁止

V1.03b 2014/10/29

- ・チェックボックスで「実行時のログやレジストリ削除ボタンを表示」を選択した時の「↓」ボタンの表示内容を修正
- ・チェック用にグリッド線を表示するレジストリースイッチを新設

V1.03c 2014/10/29

- ・クラス名での比較の無効化レジストリの追加  
DisableCompareByClassName  
レジストリのクラス名を「\*」としても良い



#### V1.04 2014/11/1

- ・グリッドの格子線の描画を高速化してグリッド表示時に再描画あり
- ・アプリのウインド位置をグリッドの線に追加するモード
- ・チェックボックスでグリッド描画とアプリのウインド位置の追加を選択出来るようにした。

#### V1.04a 2014/11/4

- ・About box のバージョン名を変更

#### 【その他】

フリーソフトですので、個人、団体、会社などで自由に使って頂いて問題ありません。

本ソフトによって損害が生じてても一切の補償は出来ません。

なお著作権は放棄していません。作者に帰属しますので尊重して下さい。

テストは Windows7 で行っていますが他の OS でも大体大丈夫と思います。

不具合や要望などありましたら、[jin002012@yahoo.co.jp](mailto:jin002012@yahoo.co.jp) 宛てにお知らせ下さい。

他のサイトや雑誌での紹介は自由ですが、出来れば上記宛先へご一報下さい。